

江古田小校長室便り 「温故創新」

H30(2018)・0315 NO111

校長 伊波喜一

ありがとう 門出の言葉 感謝込め 晴れの舞台に 隠れての徳

4月並みの陽気が続いている。今年は卒業式にあわせて桜が咲くようだ。出来れば入学式までもってこれればと思うのだが、自然のリズムには目に見えない力が働いているようである。陰徳という言葉がある。隠れての徳を積むことを指す。スター街道を走る時の人がいる。この人には長い下積み生活があった。売れない＝食べていけないである。鳴かず飛ばずの下積み生活が続く。日銭を稼ぐ生活のなか家庭を持ち、家族も食べさせていかなければならない。自分の事をするだけでも手一杯だっただろうに、その人は友と苦勞を分かち合う。そればかりか、自身の芸で何とか食べていけるようになると、食べられない仲間を紹介し引き立ててもらおう。そういう生き方をしているその人には、得も言われぬ温もりがある。言葉にしなくても伝わってくる温かさがある。人のために苦勞した経験が、自身を何倍にも大きく成長させるからだ。卒業生の晴れの舞台である卒業式が近づいてきた。彼等の積んだ陰徳は江古田の校風を築く。後輩のために黙々と尽くした彼等の雄姿を、眼に留めたい。